



きらら新聞

27

発行 キララ新聞社
発行責任者 秋山 眞兄
山梨県北州市白州町横手2259
山梨郷牧場内
TEL:0551-35-0131・4520
FAX:0551-35-0132

2006年
4月30日

「書を読み、自然に親しみ、勤労にいそむ」

「平和」と「飯(めし)」

20世紀は人類史上、最悪の戦争の世紀であり、戦死者は2億人に上る。日本も2000万人を殺し、300万人が殺された。今の子どもたちが生きる21世紀が「平和」な世紀になることを願うものの、その兆しがあるどころか、ますます戦争の深みに引きずり込まれていこうとしている。

しかも、これからの戦争は、国どうしの戦争というより、他国からの様々な干渉や侵略が一定程度あったとしても、具体的には内戦的な様相を呈することは必須であるし、実際そうになっている。その場合、軍隊は自国民を守るのではなく、特定の階層に刃向かう自国民に対する暴力装置に特化する。現在の戦争状態地域を見れば明らかであろう。日本軍も第2次世界大戦下の沖縄でまさにそのように機能した。にもかかわらず、軍隊を持つことが当然との考えが、日本に蔓延しつつある。北朝鮮(朝鮮民主主義共和国)は国家としてはどうしようもない国家であるが、それを楯にして、戦争放棄の現憲法を改正(内容的には新憲法制定に等しい)しようという動きに賛成する国民も多い。しかし、軍隊を持つことは、早晚「明日はわが身」ということになるであろうことについて、どれだけ視野に入っているのだろうか。

ところで「平和」という字の源が意味することは何なのであろうか。一つに決定されているわけではないらしい。ある説では、「平」は「干(う)」という手斧を意味する字と、木片を意味する「八」の組み合わせで、手斧で木を平らかに削って木片が左右に飛び散る形を表している。また「和」は「禾(か)」という軍門に立てる標識の木の形と、神への祈りの文(祝詞)を入れる器の形(口)の

組み合わせで、軍門の前で誓約して講和する(戦争をやめること)を表しているという。また、ある説では、「平」は水面に水草が一樣にある状態を指し、「和」は「禾(のぎ)」という稲・穀物が人の「口」に入ることを意味するという。「平」はいずれにしても、かたよりや差別がないこと、全て同じように扱うことを意味している。その上で「和」を考えるならば、後者の「人々が稲を食べる」という意味に惹かれる。つまり「平和」の原義は、「誰一人へだたりなく、同じように食することが出来る状態」ということになる。

北朝鮮は、もともと山がちで平野が少ないことに加え、技術の遅れ、資金不足、天災で農業生産が極端に低い。飢えは日常である。北朝鮮と最も緊密関係にある韓国(朝鮮戦争は未だ終了しておらず、南北間は停戦状態にあるに過ぎない)は「太陽政策」の下、食糧援助や食品工場設置支援などを精力的に展開している。文字通り「平和」の行動である。しかし、日本では「どうしようもない国家」ということで、北朝鮮を経済封鎖すべきであると意見が強い。その結果がどうなるか。日常的な飢えに何らかの切っ掛けが重なると、一気に子どもや老人が飢えて次々と死んでいく事態となる。アフリカでは内戦と旱魃が、フィリピンでは農作物がいくらかでも手に入るにもかかわらず、失業がそのような事態を引き起こしたことを、われわれは目の当たりにしてきている。

韓国の思想家・詩人・小説家である金芝河(キム・ジハ)は、「天は飯(メシ)である」と喝破した。自分たちのメシ(平和)だけではなく、他国、特に隣国の人々のメシ(平和)に思いを馳せないものは「天に唾をする」ことになるだろう。

秋山 眞兄

「私とキララと白州と」 山田 汐里



はじめまして。昨年の春、晴れて高校生になりました。生まれも育ちも埼玉県、白州とカラオケが大好きな看板屋の一人娘、山田汐里です。

私が白州に出会ったのは、小学校3年生の春。当時はとにかく白州が好きで、学校のお知らせが届く度に、「絶対行くからね！」と親に言って来ていました。白州に来れば、作業はサボるしイタズラばかりするし、今の子に負けないくらいやんちゃでした。

中学生になり、今までどれだけ迷惑をかけてきたのかを気にするようになり、毎回緊張しながら白州に来ていました。中学3年生の時、受験勉強のため半年くらい白州を離れたのですが、白州が恋しくて恋しくて仕方ありませんでした。私にとって白州はこんなに大きな存在になっていたんだなあ、と確信した半年でした。そして、半年白州を我慢して目指した志望校にも合格することができ、新たな気持ちで今年の春から白州ライフを再会し、今に至ります。現在は、埼玉の公立高校に通いながら、休日などを使って白州で農作業の手伝いをしたり、定例会に出席させてもらったりしています。高校生になって、白州と関わる時間がだいぶ増えてきました。その時間の中で、とにかく新しいものに飛び込み、今までの経験を活かしつつ、自分のものにしていきたいと考えています。まだ戸惑うことばかりで、色々ご迷惑をかけると思いますが、準スタッフとして、白州大好き子として、パワフル山ちゃん頑張っていききたいと思います。どうぞよろしくお祈りします(*^^*)



本を読んでみよう!

「変わる家族 変わる食卓—真実に破壊されるマーケティング常識—」

勁草書房 株式会社アサツー デイ・ケイ岩村暢子 神宮寺明子

朝ご飯を食べないことから、お菓子やサプリメントを食事代わりにするなど、食の乱れが色々騒がれています。その中で、この本は特定(欠食率や栄養素など)の要素だけに着目するのではなく、家庭の食卓丸ごとを調査し、まとめられたものです。1960年以降生まれの子持ちの主婦を対象に、一週間の朝昼晩の食事をアンケート調査・面接調査と細かく実態を追っています。

面接調査を行っているので実に様々な主婦達の声ののっています。「うちと同じ!」と思うか、開いた口がふさがらない、と思うかは分かれるところですが、無視できないものを感じます。



調査結果からなにか具体的な結論を提示してあるわけではありませんが、その食卓風景を「いまどきの若い女は...」では済ますことのできない様々な要因が見えてくると思います。

■ 編集後記 ■

キララ新聞の発行が暫く途絶えていましたが、ようやく再開できました。

冬の学校記録集の作成、春の学校の実施、身に沁みてGWの準備と春の学校記録集の作成...、すぐに夏の学校の準備が始まります。考えてみると四季の移り変わりに勝るキララの活動の一年間の推移です。

季節の学校に参加する子供たちの親御さんとの繋がりを作っていこうという取り組みを始めようとしています。月一回の発行をしっかりと実現してゆくことがまずは第一の課題です。

この号がお手元に届く頃は、「身に沁みて白州・GW」がすでに開催されている頃でしょう。

新緑の美しい季節です。子供さんたちと一緒に白州の風景や様子を見にいらせて下さい。

今後ともよろしくお祈り致します。

キララ本部 見田由布子

お問合せは、お電話が下記にてお受けします。
<http://www.hakusyu.jp/kilala/> info@hakusyu.jp

「白州にやっと春が来ました」



↑縦の木の下面にカタクリの花が咲きました。大切に思っていると増えていくでしょうか。



↑冬の学校でスケートリンクになった芹の田もすっかり氷が解けています。



↑横手の村にも遅い春が花開いています。水仙や蓬(ヨモギ)です。大地も蒲公英(タンポポ)や小さな花々で彩られ始めています。もうすぐ新緑の季節です。



←農場では苗づくりが始まっています。夏の学校で皆が収穫するトマト・ナス・きゅうり・しし唐などの夏野菜たちです。



↑春の学校で皆と定植したサンチュの苗です。まだ収穫までは少し時間がかかりそうです。



↑春の学校で定植したレタスです。6月には収穫が始まります。皆の家にも届くでしょう。



↑仔牛も元気に育っています。



←昨年の暮れにやってきて冬の学校では新谷君と一緒に世話したひよこたちもこんなに大きくなりました。もう小さな卵を産み始めていますよ。



↑この冬の寒さを畑で過ごしたほうれん草です。しっかりと茎と葉が冬の間に十分土中の栄養を吸い上げ柔らかく甘みの美味しいものに育ちました。



↑茨城の友太郎とソウヘイ兄弟が育てていたウコッケイが白州にやってきました。親トリと二羽の子供です。夜明け前になるとトキの声を上げ、庭のチュウリップの芽も食べてしまうツワモノです。



↑農場は春耕の季節です。忙しくトラクターが畑を駆り回っています。耕した畑には一斉に葉物の種まきが始まります。